

事務事業名	清良平周辺登山道整備事業		所属部局	農林商工部		単位番号	6015							
			所属課室	農林振興課		課長名	野田栄志							
	☐ 実施計画事業		所属担当	森づくり担当		担当者名	清水 久							
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		19	自然環境の保全と活用		01	一般	0	6	0	2	0	1	0	2
政策		32	自然と共生する地域づくり	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金									
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度) 年度)				法令根拠									
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 市有林清良平周辺の森林環境整備や保全育成のため地域市民による草刈及び登山道の整備を実施している。			事業費の主な内訳 (22年度)										
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)				
				報償金		260								
								計		260				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	市有地である清良平の草刈また除伐してもらった。また山野草の保護も実施した。
23年度活動予定	草刈及び登山道の整備を実施
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
自然資源(山林の維持管理) 清良平周辺登山道	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
清良平周辺の森林環境整備により、森林の保全維持と安全な登山道にする。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
南アルプス市の森林が守られ、自然が豊かになる。	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 参加人員	人
イ 草刈または除伐に要した日数	日
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 清良平周辺登山道の距離	km
イ	
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 作業日数	数
イ 参加人員	人
ウ 整備面積	ha
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 美しい自然環境の保全について	数値
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	260	260	260	240	240	240	
	事業費計 (A)		千円	260	260	260	240	240	240	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	25							
		延べ業務時間	時間	5							
		人件費計 (B)	千円	22	0	0	0	0	0	0	
		(A)+(B)		千円	282	260	260	240	240	240	0
活動指標		ア	人	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0		
		イ	日	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0		
		ウ									
対象指標		ア	km	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0		
		イ									
		ウ									
成果指標		ア	数	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0		
		イ	人	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0		
		ウ	ha	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
上位成果指標		ア	数値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
		イ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併前より実施されており、南甘利山登山また生涯学習による自然教室の場として利用されてきた。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	合併以前より継続的に維持管理を実施してきた。地元山友会のメンバーへのこの事業を依頼し実施してきた。今後も継続し市有林の管理を行う。なお会のメンバーの高齢化に伴い参加者が減少してきている。\$
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	森林整備や作業路などの草刈りなどもしてもらいたい。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	山友会のメンバーも高齢化しているため後継者に加入してもらうよう指導している。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	整備箇所的事前調査の実施を行い整備エリアの均等を図るなど精査しながら指導に心掛けた。

事務事業名	清良平周辺登山道整備事業	所属部	農林商工部	所属課	農林振興課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 市有林内や清良平の環境保全になっている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 地元(山友会)が現地の状況もよく熟知しているため。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 同地域の山林の維持管理により清良平周辺の環境整備になり、安全な登山にも繋がるため適切。また、森林を守り自然を豊かにするという目的、事業の必要性の見直しは必要ない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 清良平周辺は平地奈部分と岩石エリアの部分があり作業が厳しい中で整備しているため。これ以上の向上は望めない。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 予算を一本にする。ただし金額については合併前からの事業額であるので金額の変更はむづかしい。 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 自然はすぐに荒れてくるため、最低限の整備を毎年しなければ荒地になってしまう樹木育成にも影響がでる。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 森林環境整備に必要なため。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 現地での作業が急峻なところもあり草刈だけでなく土留めや階段などの整備も行っているためこれ以上の削減余地はない。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 人件費の削減を以前に行った経緯がありこれ以上は出来ない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 登山などで訪れた市民等利用者の安全と景観が保全されるので公平である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	地元の組織のため山林を熟知している部分が多く、また森林整備にも長年携わってきている団体につき現状維持。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑩																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					